

## 2022 年度 知床五湖登録引率者 登録試験（実地試験）審査要綱

## 1. 採点方法

- ・ 審査は、予め設定された確認項目及び試験全般における姿勢や対応の総合評価項目について、減点方式で採点し、8割で合格。
- ・ 3名の審査員がそれぞれ採点し、その合計を評価する。
- ・ (2)以降で減点を行った場合は、(1)の関連項目についても減点を検討する。
- ・ 次の場合は点数によらず不合格とする。①装備不足（ヒグマスプレーを持参しなかった場合）、②最終的な中止/継続判断を基本ルールに沿わない形で判断した場合、③試験態度が悪く、指摘しても改善しなかった場合④安全確認不足（遭遇後のビジターの安全・人数確認を行わないまま、本部に安全確認の報告を行った場合）は、不合格とする。

## 2. 審査・評価項目、配点

## (1) 総合評価（実地試験全般での姿勢・対応）

評価項目	配点
A:真摯な態度で実地試験に臨み、対応しているか。規則を理解し、遵守しているか。	5点
B:試験開始から終了までの間、（ヒグマ遭遇時以外においても）同行者の行動や状態を把握し、統率できているか。	5点
C:事前説明、一時滞留時、ヒグマ遭遇時、中止判断時の各段階において、対応が落ち着いており、説明・指示がわかりやすく示されているか。	5点
D:試験開始から終了までの間、（同行者に対し解説をしている時においても）対ヒグマの危機対応を念頭に周囲に気を配っているか。	5点

チェック方法：対応できていなければいらない点が見られれば減点（-5）、一部できていなければ一部減点（-4）。

試験態度については、改善の必要がある場合には一度警告し減点（-5）。警告にもかかわらず改善が見られない場合には、試験中止。

B:対同行者の行動や状態の把握、C:対同行者との意思疎通・コミュニケーション、D:対ヒグマへの危機対応の備えへの配慮、対応については、同行者の行動や安全確認ができていない、説明・指示が不明瞭であった、同行者との会話時等においてのヒグマ対応への意識を払えなかったといった対応が見られれば減点（-5）。

## (2) 出発前に行う事項

評価項目	配点	(1) 関連項目
A:クマスプレーをすぐに抜いて使用できるよう装着しているか。	1点	D
B:立入前の事前説明の際、ビジターを聞こえる範囲に集合させ、聞き洩らす人がないようにしているか。	1点	B
C:立入前の事前説明の際、ビジターの食べ物持ち込みをチェックし、適切な対応を行っているか。	1点	A

チェック方法：クマスプレーは手元を見ずにすぐ抜けるか、実践してもらい確認する。一連のモーションの中で抜けない場合は減点。ビジターへの事前説明については、本部から説明ペーパーを受験者に渡し、それをういビジター役に説明する。

**(3) 出発時に行う事項**

評価項目	配点	(1) 関連項目
A: 出発時に本部に「〇〇班、出発します。」と無線を入れ、出発を伝えているか。 無線の電源、チャンネルを確認し、入感確認を行っているか。	1 <del>2</del> 点	A

チェック方法：無線内容の確認については本部無線担当に2名の補助検定員を配置する。無線確認が定められた箇所までに行われなかった場合に減点。

**(4) ヒグマとの遭遇回避の対応**

(誘引物のあるところ、見通しの悪いところの対応)

評価項目	配点	(1) 関連項目
遭遇回避の音を出しているか（以下3項目を数か所において確認）。		
A: 遭遇回避の音を出す際には、「立ちどまり」をおこなったか。	3点	D
B: 遭遇回避の音の大きさは十分か。	3点	D
C: 音を出した後、反応を聞いているか。	3点	D

チェック方法：複数の警笛区間、痕跡箇所を設け、現場に看板等の印を付けて受験者に知らせる。痕跡箇所については、看板の他、本部から受験者に位置と内容を出発前に知らせる。

各評価項目について、それぞれ計「3点」の配点。模擬ヒグマが出発する箇所を含め、1箇所ごとの対応について評価する（1箇所の対応不足で、減点-3とはならない）。

各評価箇所について、検定員3名それぞれが、行っていない・不十分と判断したものが減点対象となる。

本審査項目では、「立ち止まる」・「音を出す」・「音への反応を聞く」の3項目がそれぞれの警告区間で行われているかを審査する。試験区間全般のヒグマへの警戒などの対応・配慮は総合評価で評価を行う。

**(5) ヒグマ遭遇時の対応**

## 5-1) 初動

評価項目	配点	(1) 関連項目
A: すみやかにビジターにヒグマがいることを伝えているか。	2点	B
B: 立ち位置を変え、ビジターとヒグマの間に引率者が入る形をとっているか。	2点	B
C: クマスプレーを抜き、手に持っているか。クマスプレーを適切に扱っているか。	2点	C

チェック方法：遭遇した地点で行えば減点無し。

## 5-2) 誘導・安全確認

評価項目	配点	(1) 関連項目
A: ビジターの行動をコントロールし、自分の指示に従わせているか。	1 点	B
B: 安全な位置（十分な距離）までビジターを誘導しているか。	1 点	B
C: 安全に避難した後、ビジターの安全を確認しているか。	1 点	B

チェック方法：~~ビジターの安全確認は、確実に行われたかを確認するため、受験者は避難後に目配りや手振り、声出しなどの審査員が判断できる方法で指差し確認をしてビジター人数確認をすることを確認する。必須とする。~~

## 5-3) 本部への連絡（無線技術）

評価項目	配点	(1) 関連項目
A: いきなり用件に入らず、本部に無線を入れる際、入感確認をおこなったか。 「〇班より、本部応答願います。」	1 点	C
B: 遭遇箇所を適切に伝えられたか。	1 点	C
C: ビジターの安全について報告ができたか。	1 点	C
D: ツアー中止、継続の判断を伝えたか。	1 点	C
E: ヒグマとの遭遇状況についての情報を本部に伝えられたか。	1 点	C
F: 無線通信中も周囲に気を配っているか。	1 点	D
G: 情報が未整理、通信が不明瞭等で、本部が聞き返すことはなかったか。	3 点	C

チェック方法：~~ビジターの安全確認を行わないまま無線で全員無事を宣言した場合、無線にて判断（中止/継続判断）を間違っただけの場合には、試験中止とする。無線の内容確認の事項については本部無線担当に 2 名の補助検定員を配置し、5-3)G 項目の評価を行う。~~

無線連絡例について手帳等にコピーを貼り付けるなどして、ヒグマ遭遇時の対応への備えをしておくことが望ましい。

試験実施会場にポイント看板を掲示するので、遭遇位置については、そのポイント名で伝える。